実践事例（１）
第３・４・５・６学年　総合的な学習の時間　～表現力の育成を目指して～

１　はじめに

本校が所在する岡村島は、愛媛県北部の今治市関前地域にあり、隣県とは岡村大橋でつながっている。また、今治市内とは一日数本のフェリーや快速船で結ばれている。

岡村島の主な産業は、農業や漁業であるが、現在は後継者不足に悩まされている。若者が島に定住するための仕事もほとんどなく、過疎化・高齢化の一途をたどっている。

本校は、明治９年の開校以来、関前地域の教育振興に大きく貢献してきた。かつては、500人もの児童が在籍した時代があったが、現在では、全校児童６名の極小規模校となっている（今年度は１年生が在籍していない）。保育所も休園となり、今後の児童数増は見込めないのが現状である。

第２学年（単級）、第３・４学年（複式学級）、第５・６学年（複式学級）の３学級で編成されており、幼少時から互いをよく知ってるため、学年に関係なく交流することができる。校舎は１階が小学校、２階が中学校という併設校舎で、児童生徒の交流も頻繁である。中学校免許をもった小学校教師が中学校の授業へ赴いたり、逆の場合もあったりと、授業交流も盛んである。

児童数が少ないため、運動会や学習発表会など様々な活動や行事において、地域の方々の協力なくしては成り立たない状態であるが、保護者や地域の人々は学校教育に協力的で、地域学習や交流活動に際して温かい支援が得られる。

このような環境の下、子どもたちは、地域のよさを感じつつ明るく素直に育っているが、幼少時より、言葉に表さなくても気持ちをくみ取ってもらえることが多く、自分の思いを適切な言葉で相手に伝えることを苦手としている面が見られる。そこで、総合的な学習の時間（チャレンジタイム）における地域の「野鳥」の観察・保護活動等を通して、自分の思いを表現する力を身に付けさせるとともに、地域を愛する心を更に育てていきたいと考え、実践を重ねた。

２　実践事例

（１）総合的な学習の時間の年間指導計画の見直し

本校の総合的な学習の時間は、３年生から６年生までの４学年合同で行うため、４年サイクルで年間指導計画を作成している。第１サイクルは、岡村の基幹産業であるみかん作りやサワラ漁などを取り上げた「関前の食」、第２サイクルは、岡村島の珍蝶で準絶滅危惧種に指定されている「クロツバメシジミチョウ」、第３サイクルは、岡村島の高齢化社会の問題に焦点を当てた「福祉」、第４サイクルは、地域の自然に目を向けさせる「野鳥」をメインテーマとして、４年間を通した学習を進めている。第４サイクルは、以前は農業をテーマにバケツ稲の栽培を進めていたが、これは第１サイクルに統合し、より身近な野鳥の学習を通じて、地域の自然環境や野鳥の保護に努めている人について学ぶ機会を設定する方がよいのではないかと考えた。そこで、岡村の野鳥について観察を行い、鳥が育つ環境ひいては岡村の自然に対して自分ができることについて考えさせていくこととし、「野鳥」をメインテーマとした内容に改め、年間指導計画の見直しを図った。また、地域の野鳥に詳しい方にゲストティーチャーとして来校していただくことにより、岡村の鳥の生態等についても詳しく知ることができ、児童の興味・関心が高まるとともに、地域とのつながりが深まると考えた。

野鳥について学習を進める布石として、前年度に巣箱を製作し、学校周辺に設置することとした。児童は、新たな年度がスタートしたときに巣箱に新しい命が宿っていることを期待しながら、熱心に巣箱を製作することができた。

巣箱の設置

①　総合的な学習の時間の全体計画（抜粋）

〈児童の実態〉
・明るく素直で、学年に関係なく遊ぶことができる。
・幼少時から少人数のほぼ同一の集団で生活してきており、互いをよく知っている。
・総合的な学習の時間が好きな児童が多い。
・地域に対する親しみと愛着の深い児童が多く、地域行事にも積極的に参加している。

〈学校教育目標〉
心豊かでたくましい児童の育成

目　　標
○地域の環境〈人・自然・文化・社会〉とのかかわりを通して、課題を見つけ、異年齢集団の中で協力しながら、主体的・創造的・協同的に課題を解決しようとするとともに、地域に対する親しみと愛着を深め、自分の生き方を考えようとする。

〈学校の状況〉
・広島県境に位置し、瀬戸内海の美しい自然に恵まれた離島の小規模校である。
・１階が小学校、２階が中学校という小中併設校舎で、保育所も隣接している。
・保護者や地域の人々が、学校教育に協力的で、地域学習や交流活動に対して惜しみなく協力してくださる。

〈育てようする資質・能力及び態度〉

	第３・４学年	第５・６学年
学習方法	・対象との体験的な関わりを通して課題に気付く。 ・解決の見通しをもち計画を立てる。 ・相手や目的に応じて表現する。 ・学んだことを生活の中に生かす。	・対象と積極的に関わる中で、課題を設定する。 ・解決の方法や手順を考えて計画を立てる。 ・相手や目的に応じて効果的に表現する。 ・学んだことを生活の中で生かして追求する。
自分自身	・自分の行為について意思決定する。 ・目標を設定して、課題の解決に向けて行動する。	・自らの生活の在り方を見直し、よりよい生活を考えて実践する。 ・自己の成長を振り返り、これからの自分を見つめ、自己を高めようとする。
他者や社会	・異なる意見や他者の考えを認める。 ・自分と地域のつながりに気付き、地域と進んで関わる。	・他者と協力して課題を解決する。 ・自分と地域の関わりを考えながら、地域の活動に参加する。

〈内　　容〉

		学習対象	学習事項
横断的・総合的な課題	環境	身近な自然環境のすばらしさや環境問題に取り組む人々	・地域の自然の良さや大切さ ・環境問題と人間の生活との関わり ・自然と人間との共生
	福祉	地域の高齢者、障害者と暮らしを支援する人々	・身近な高齢者や障害者を支援する仕組みや携わる人々 ・身近なボランティア活動への参加
	食	食をめぐる問題と地域の農業及び漁業の生産者	・地域の農業の現状と日本の食糧問題 ・食の安全や食料確保と自分たちの生活との関わり ・食をめぐる問題の解決とよりよい食生活の創造を目指した取組
地域や学校の特色に応じた課題	町づくり	町づくりや地域活性化のために取り組んでいる人々や組織	・地域の人々がつながり、支え合って暮らすよさ ・町づくりや地域活性化に取り組んでいる人々や組織とその思い ・地域の一員として、町づくりや地域活性化に関わろうとする活動や取組

〈中学校との連携〉

チャレンジタイム
（全学年）個人研究　福祉学習 伝統文化継承活動 （１年生）ふるさとを見つめる （２年生）生き方を考える （３年生）社会の中で共に生きる

〈　学　習　活　動　〉

チ　ャ　レ　ン　ジ　タ　イ　ム

全　学　年
・学習発表会 〈人・文化・社会〉

	第３・４学年	第５・６学年
毎年	地域のお年寄りの自分史作り	
①	ふるさと関前　よいとこさがし 〈関前の食プロジェクト〉	
②	ふるさと関前　よいとこさがし 〈守れ！クロツバメシジミ〉	
③	ふるさと関前　よいとこさがし 〈元気でいきいき　楽しく長生き島づくり〉	
④	ふるさと関前　よいとこさがし 〈岡村の野鳥を大切に〉	

〈指導方法〉
・児童の課題意識をつなげ新たな課題を生み出す支援
・児童の深い見取りによる個に応じた支援の重視
・児童が諸感覚を使って試行錯誤できる体験活動の工夫

〈学習の評価〉
・ポートフォリオを活用した評価の充実
・個人内評価の重視
・目標・指導・評価の一体化
・学期末、学年末における指導計画の評価の実施

〈指導体制〉
・全教職員の協力体制の確立と校内研修の充実
・教職員自らの問題解決力や情報活用能力の向上
・授業参観による中学校との交流

② 年間指導計画（４年サイクル）

	４月	５月	６月	７・８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月
１年目 （７０時間）	ふるさと関前　よいとこ探し　「関前の食プロジェクト」(50時間) ○オリエンテーション(2)　○関前の魚を知る(2) ○農業・漁業の工夫を調べよう(6)　○わたしたちにできることを考えよう(2) ○漁獲量やとれる柑橘類の種類について調べよう(4)　○学習発表会の計画を立てよう(2) ○農協・漁協の見学(6)　○学習発表会の練習(14) ○農家・漁師さんへのインタビュー訪問(6)　○活動を振り返って(2) ○地元の魚をおいしく食べよう(4)								「お年寄りの自分史作り」(20時間) ○オリエンテーション(2) ○訪問・取材（3回）(6) ○訪問の準備とまとめ(3) ○自分史のまとめと発表の準備(7) ○自分史の発表会(2)		
２年目 （７０時間）	ふるさと関前　よいとこ探し　「守れ！クロツバメシジミ」(50時間) ○オリエンテーション(2)　○ツメレンゲの植え替え、クロツバメシジミの観察(2) ○クロツバメシジミについて調べよう(12)　○学習発表会の計画を立てよう(2) ○ツメレンゲの分布図を完成させよう(10)　○学習発表会の練習(14) ○わたしたちにできることを考えよう(6)　○活動を振り返って(2)								「お年寄りの自分史作り」(20時間) ○オリエンテーション(2) ○訪問・取材（3回）(6) ○訪問の準備とまとめ(3) ○自分史のまとめと発表の準備(7) ○自分史の発表会(2)		
３年目 （７０時間）	ふるさと関前　よいとこ探し　「元気で生き生き　楽しく長生き島づくり」(50時間) ○オリエンテーション(2)　○学習発表会の計画を立てよう(2) ○お年寄りの生活を調べよう(12)　○学習発表会の練習(14) ○お年寄りを支えるしくみについて調べよう(6)　○活動を振り返って(2) ○わたしたちにできることを考えよう(12)								「お年寄りの自分史作り」(20時間) ○オリエンテーション(2) ○訪問・取材（3回）(6) ○訪問の準備とまとめ(3) ○自分史のまとめと発表の準備(7) ○自分史の発表会(2)		
４年目 （７０時間）	ふるさと関前　よいとこ探し　「 岡村の野鳥を大切に！」(50時間) ○オリエンテーション(2)　○学習発表会の計画を立てよう(2) ○野鳥の生態や野鳥の住む環境などについて調べよう（探鳥会も行う）(20)　○学習発表会の練習(14) ○活動を振り返って(2) ○野鳥愛好家の方々へのインタビュー(4) ○巣箱を作ろう(2)　○バードセーバーを作ろう(2) ○岡村および世界の野鳥を取り巻く環境について考える(2)								「お年寄りの自分史作り」(20時間) ○オリエンテーション(2) ○訪問・取材（3回）(6) ○訪問の準備とまとめ(3) ○自分史のまとめと発表の準備(7) ○自分史の発表会(2)		

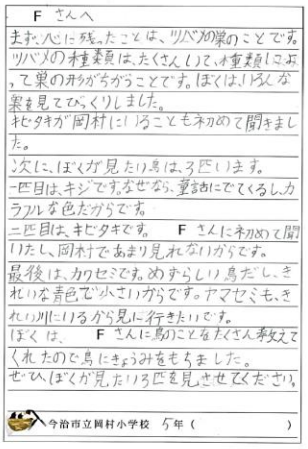
③ 評価の観点と評価基準

評価の観点	中学年	高学年
よりよく問題を解決する資質や能力	○　身近な地域の自然や文化等から、追究したい課題を見付けようとしている。 ○　興味・関心をもって課題を追究している。	○　対象と積極的に関わる中で、より深まりのある課題を見付けようとしている。 ○　目的意識をもち、計画的に課題を追究している。
学び方やものの考え方	○　必要な情報を集め、整理している。 ○　調べる方法を考え、見通しをもって課題を解決している。	○　目的に応じて必要な情報を収集・選択し、効果的に活用したり整理している。 ○　調べる方法を考え、計画を立て、課題に対する自分なりの視点をもって解決している。
主体的、創造的、協同的に取り組む態度	○　環境や人など、様々な事象に進んで関わり粘り強く課題に取り組んでいる。 ○　調べたり体験したりしたことを整理して表現している。	○　環境や人など、様々な事象に目的意識をもって関わり、粘り強く課題に取り組んでいる。 ○　発信する目的や相手を考え、課題について明らかになったことを工夫して表現している。
自己の生き方	○　人々とのふれあいを通して、他者の考えやそのすばらしさを理解しようとしている。	○　様々な体験や人々との交流を通して、いろいろな考え方や生き方があることを理解し、自分の生活に生かそうとしている。

（２）ゲストティーチャーを迎えて

「島の蝶」に指定されている準絶滅危惧種「クロツバメシジミチョウ」の島内の第一発見者であり、野鳥のことにもたいへん詳しいＦさんに来校していただき、岡村に生息する野鳥についての話をしていただいた。岡村島の山頂周辺には、図鑑でしか見たことのないオオルリやルリビタキがやってくることを目を輝かせながら聞き、興味をもった鳥について実際に見てみたいと強く思ったり、さらに詳しく調べてみたいと思ったりするようになった。

Ｆさんの話を聞く様子



Ｆさんへ

まず、心に残ったことは、ツバメの巣のことです。ツバメの種類は、たくさんしてい種類にあって巣の形がちがうことです。ぼくは、いろんな巣を見てびっくりしました。

キビタキが岡村にいることも初めて聞きました。

次に、ぼくが見たい鳥は、３匹います。

一匹目は、キジです。なぜなら、童話にでてくるし、カラフルな色だからです。

二匹目は、キビタキです。　Ｆさんに初めて聞いたし、岡村であまり見れないからです。

最後は、カワセミです。めずらしい鳥だし、きれいな青色で小さいからです。アマセミも、きれい川にいるから見に行きたいです。

ぼくは、　Ｆさんに鳥のことをたくさん教えてくれたので鳥にきょうみをもちました。

ぜひ、ぼくが見たい３匹を見させてください。

今治市立岡村小学校　５年（　　）

児童のお礼の手紙

（３）野鳥観察

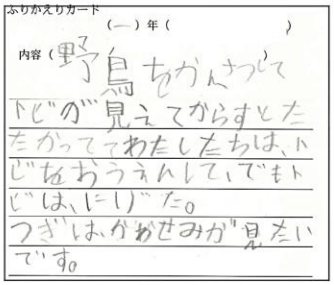
運動場にやってくる野鳥の観察は、総合的な学習の時間や休み時間等に双眼鏡を使って行った。

また、学校外にも出て行き、島に生息している野鳥を探す探鳥会も行った。４月の第１回目では、10種類の野鳥を見つけることができた。児童は、回を重ねるごとに野鳥を見付けるコツをつかんでいき、見付けた野鳥を素早く識別できることができるようになった。島の東西南北を巡る４回の探鳥会で、総計25種類の野鳥を見つけることができた。

さらに、学校にやってきて教師の手からひまわりの種を食べるようになったヤマガラに、自分たちでえさをやることにも挑戦し、うまく給餌することができた。

探鳥会

ヤマガラとなかよくなろう



ふりかえりカード

（一）年（　　）

内容（野鳥ちかんさつで

トビが見えてからすとたたかってたわたしたちは、トビをおうえんしていでもトビは、にげた。

つぎは、かわせみが見たいです。

児童の感想

（４）巣箱の観察

野鳥に負担がかからない程度に巣箱の中の様子も観察した。卵からかえったばかりのひなを見て、最初は怖がっていた児童も次第に慣れ、日々の成長に喜びを感じるようになった。

また、巣から落ちてしまい弱っていたスズメのひなを、Ｆさんの協力の下で育てることになった。懸命に生きる小さな姿から、言葉では言い尽くせないたくさんのことを学ぶことができた。また、このことは新聞にも紹介された。

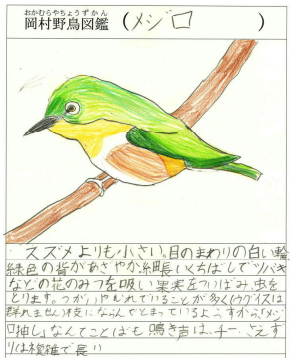
シジュウカラのヒナ

（５）岡村の野鳥図鑑の作成

学習の集大成として、「岡村の野鳥図鑑」を作ることにした。自分たちの目で確認できた野鳥25種類について、図鑑やパンフレットの写真、絵をスケッチし、その特徴について調べたものを一冊にまとめることにした。高学年はもちろんのこと、低学年もとても熱心にスケッチに取り組み、すばらしい図鑑に仕上がった。また、この野鳥図鑑は、学習発表会を参観してくださった地域の方々にも読んでいただいた。

「岡村の野鳥図鑑」の編集風景

「岡村の野鳥図鑑」表紙



メジロのページ

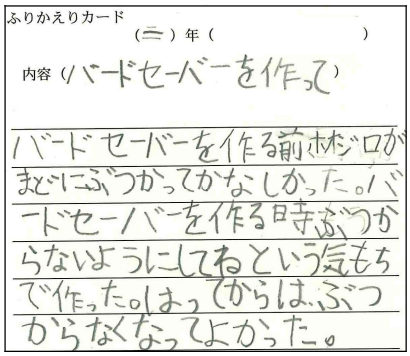
（６）バードセーバーの製作

毎年、中学校の玄関の窓ガラスにぶつかって脳しんとうを起こしたり、死んだりする野鳥が後を絶たなかった。そんな時、児童たちは、いただいた野鳥観察のパンフレットからバードセーバーというものがあることを知った。また、ある児童は、夏休みになると水泳教室に通う広島県呉市のプールにもバードセーバーが貼ってあることに気が付いた。

児童たちは、野鳥の命を守るために意欲的にバードセーバーを製作し、小学校と中学校の玄関に貼り付けた。その結果、誤って窓ガラスにぶつかって命を失う野鳥がほとんどいなくなり、児童はバードセーバーの効果を感じることができた。

このことから、児童は意識が高まると視野が広がり、様々なことに気付き、自分たちの取り組みにつなげることができるようになるのだと感じた。

バードセーバーの設置



ふりかえりカード
（二）年（　　）
内容（バードセーバーを作って）

バードセーバーを作る前にメジロがまどにぶつかってかなしかった。バードセーバーを作る時ぶつからないようにしてねという気もちで作った。はってからはぶつからなくなってよかった。

児童の感想

（７）学習発表会

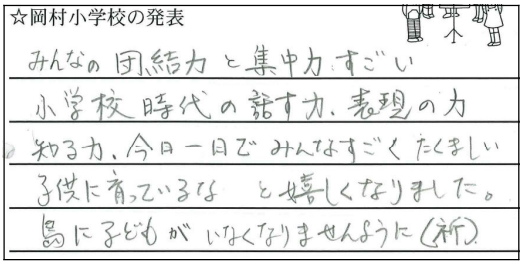
毎年、島内の離島センターに保護者及び地域の方々を招いて、学習発表会を行っている。この学習発表会を、最も重要な表現力育成の場と位置付け、劇や歌、合奏、踊り、体育の技、お笑いなどを発表している。

準備にはかなりの時間を要するが、児童は毎年自分たちの役割を理解し、台詞覚えや段取りなど、高学年を中心に計画的に行動することができている。総合的な学習の時間で学んだことに関する劇では、台本の根幹になる部分を児童たちの手で作り上げることができた。その台本を基に、低学年は鳥になりきって表現することができた。

普段の授業から常に異学年と交流しているが、学習発表会は特に相互に学び合う格好の機会である。低学年のみならず、高学年も台詞の言い回しや動作など、他の児童の演技や言動から学び取ることができた。

児童たちの努力の結果、今年も参観者からたくさんの賞賛の言葉をいただいた。

野鳥観察のまとめの劇「やまちゃん」



☆岡村小学校の発表

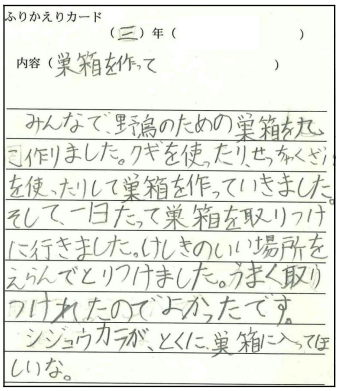
みんなの団結力と集中力すごい
小学校時代の話す力、表現の力
知る力、今日一日でみんなすごくたくましい
子供に育っているなと嬉しくなりました。
島に子どもがいなくなりませんように（祈）

地域の方の感想

（８）巣箱づくり

前年度末にも行った巣箱づくりを今年度も行った。自分たちの巣箱でひながかえったので、また今年も入ってくれることを祈りながら作ることができた。作業で難しいところを互いに助け合って進める姿が見られた。

巣箱の作成



ふりかえりカード

（三）年（　　）

内容（巣箱を作って　　）

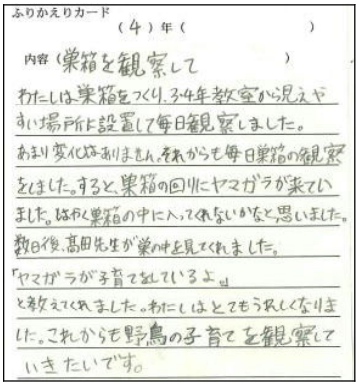
みんなで、野鳥のための巣箱を九こ作りました。クギを使ったり、せっかくざいを使ったりして巣箱を作っていきました。そして、一日たって巣箱を取りつけに行きました。けしきのいい場所をえらんでとりつけました。うまく取りつけれたのでよかったです。

シジュウカラが、とくに、巣箱に入ってほしいな。

児童の感想

（９）自己評価・相互評価の場の設定

活動するごとに感想を書き留めさせ、自分を振り返り、これからの展望をもたせるようにした。この積み重ねにより、自分の思いを「書く」という手段を通して、自己評価させることができた。また、相互に読み合ったり、発表させたりすることで仲間の考えや思いも知ることもでき、次時への共通の目標をもたせることができた。さらに、児童の感想を生かし、教師は活動中や活動後に個に応じた指導や支援を行うことができた。しかし、相互評価の場面では、少人数であるため、意見の多様性に欠ける面は否めなかった。



ふりかえりカード

（４）年（　　）

内容（巣箱を観察して　　）

わたしは巣箱をつくり、3・4年教室から見えやすい場所に設置して毎日観察しました。あまり変化はありませんでした。それからも毎日巣箱の観察をしました。すると、巣箱の回りにヤマガラが来ていました。はじめ巣箱の中に入ってくれないかなと思いました。数日後、高田先生が巣の中を見てくれました。

「ヤマガラが子育てをしているよ。」

と教えてくれました。わたしはとてもうれしくなりました。これからも野鳥の子育てを観察していきたいです。

自分の活動を振り返って「書く」

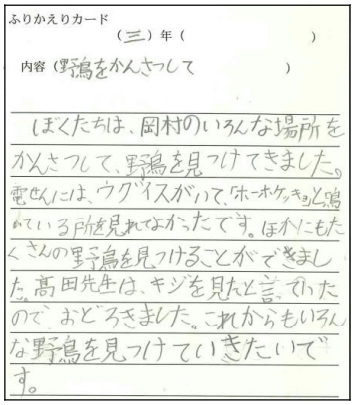
３　研究の成果と今後の課題

（１）研究の成果

○　総合的な学習の時間の年間指導計画における単元や領域を、野鳥の観察を中心とした活動に変更し、児童の思考の流れに沿って実践することができた。その結果、児童が岡村の野鳥や自然に今まで以上に興味をもつことができた。

○　学習内容や児童の発達段階に応じて自分の思いを書いたり、発表し合ったりする場を設けることで、豊かに表現できる児童の育成に努めた。人数は少ないながらも、意見や感想を述べ合ったり聞き合ったりすることで、互いの考えのよさに気付くことができた。また、それぞれの児童の自己評価を生かして、活動中や活動後に個に応じた指導や支援を行うことができた。

○　地域の人々との活動を継続していくことで、地域の人々や自然のすばらしさ等を再認識し、故郷岡村を愛する心がさらに育ったと考える。また、児童から今後の活動についての建設的な意見も出てきたので、有効だと思われる内容については継続して取り組み、活動の活性化に努めたい。



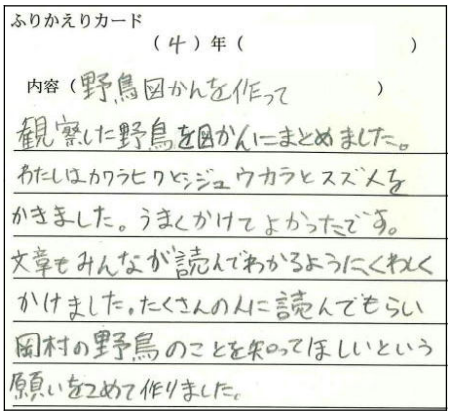
ふりかえりカード

（三）年（　　）

内容（野鳥をかんさつして　　）

ぼくたちは、岡村のいろんな場所をかんさつして、野鳥を見つけてきました。電せんには、ウグイスがいて、ホーホケキョと鳴いている所を見れなかったです。ほかにもたくさんの野鳥を見つけることができました。高田先生は、キジを見たと言っていたのでおどろきました。これからもいろんな野鳥を見つけていきたいです。

野鳥観察をふり返って



ふりかえりカード

（４）年（　　）

内容（野鳥図かんを作って　　）

観察した野鳥を図かんにまとめました。わたしはカワラヒワとシジュウカラとスズメをかきました。うまくかけてよかったです。文章もみんなが読んでわかるようにくわしくかけました。たくさんの人に読んでもらい岡村の野鳥のことを知ってほしいという願いをこめて作りました。

野鳥図鑑づくりを振り返って

（２）今後の課題

○　学習発表会などのあらかじめ設定された場面においては、児童は前もって台詞を考えたり、覚えたりして熱心に取り組むことができるが、普段の生活場面や予期せぬ場面において、とっさに判断して言葉にしたり行動に移したりすることはまだまだ難しい。自ら気付き、考え、実行できる児童が育つよう、継続的に見守り、指導していきたい。

○　発表する場を保障しても、在籍する児童が極端に少なく多様性に欠け、他の意見を取り入れることができない場合も多く見られる。これからますます児童が減っていく状況にあるので、児童に代わって教師の方が多様な意見を準備しておき、児童に伝えていくことで補っていく必要がある。